

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	A-141	22-040 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Analysis of Patients with Alcohol Dependence Treated in Silesian Intensive Care Units シレジア地方の集中治療室において治療されたアルコール依存症患者の分析		
<b>執筆者</b>		
Małgorzata Łowicka-Smolarek, Izabela Kokoszka-Bargieł, Małgorzata Knapik, Konstanty Śmietanka, Piotr Dyrda, et al.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Environ Res Public Health. 2022 May 12;19(10):5914. doi: 10.3390/ijerph19105914.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
アルコール依存症、ICU、死亡率、神経学的損傷	35627451	
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>アルコール依存症（AD）患者は、集中治療室（ICU）において特別な注意を払う必要があるが、ポーランドでは検討されたことがない。そこで本研究は他の ICU 患者群と比較した AD 患者の入院状況、治療経過、予後を明らかにすること、また AD 患者における ICU での死亡に影響する独立した要因を特定することを目的とした。</p> <p><b>方法：</b>ポーランドシレジア地方 Silesian Registry of Intensive Care Units の後ろ向き多施設研究データより、2010/10/1～2019/12/31 の ICU 入院患者 25,416 人を対象とした。AD 患者は過去の入院時の診断記録、本人または家族からの申告により定義し、ICU 入院した非 AD 患者と、入院前および入院時の変数（人口統計学的パラメータ、ICU 入院の理由・状況、合併症等）、治療情報、APACHE II スコア（ICU 入室患者における病態の重症度を客観的に評価）およびアウトカム（ICU での死亡または重度神経障害）を比較した。さらに、AD 患者の非生存者と生存者のサブグループ解析により、AD 患者における死亡に関連する要因を多変量ロジスティック回帰により検討した。</p> <p><b>結果：</b>AD 患者は 2,285 人（9.0%）であった。AD 患者は非 AD 患者に比べ、若く（平均年齢：53.3 ± 11.9 歳 vs. 62.2 ± 15.5 歳、<math>p &lt; 0.001</math>）、入院時の平均 APACHE II スコアが高く、外傷、中毒、急性膵炎、重度の代謝異常による ICU への入院頻度が高かった。AD 患者は非 AD 患者より、ICU での死亡と重度神経障害がより頻繁に見られた（それぞれ、47.8% vs. 43.0%、<math>p &lt; 0.001</math>、54.1% vs. 47.0%、<math>p &lt; 0.001</math>）。AD 患者の ICU 入室の主要因は多臓器不全であり、死亡の最も顕著な独立した危険因子であった（OR：3.30、95%信頼区間（CI）：2.50–4.36、<math>p &lt; 0.001</math>）。</p> <p><b>結論：</b>年齢が他の ICU 患者より低いにもかかわらず、AD 患者の予後は悪く、ICU に入院した AD 患者の半数以上が死亡または重度神経障害となることが判明した。</p>		